

6467 ニチダイ

古屋 元伸 (フルヤ モトノブ)

株式会社ニチダイ社長

アッセンブリ事業が牽引し、増収増益を達成

◆事業紹介

当社グループは、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業、フィルタ事業の三つの事業で成り立っている。

ネットシェイプ事業は創業時から手掛ける事業である。自動車のエンジン・トランスミッション・駆動系部品の製造に使用される精密鍛造用金型の設計・製造をメインに、カーエアコン用スクロール部品等、自動車部品の製造も行っている。特に精密鍛造用金型については、国内の全ての自動車メーカー系列企業と取引がある。

アッセンブリ事業ではターボチャージャー部品の組立を行っている。主力は VG ターボチャージャーの可変型ノズルである。

フィルタ事業では、複数のステンレス金網を一体構造化した積層焼結フィルタを製造している。石油・ガス・化学・繊維・食品産業のほか、ロケットの燃料系フィルタやバラスト水処理など、多様な分野で使用されている。

生産拠点は、国内は京都府に 2 カ所あり、宇治田原工場ではネットシェイプ事業とフィルタ事業を展開、京田辺工場ではアッセンブリ事業のターボチャージャー部品の組立を行っている。海外はタイに 2 社を置いている。ニチダイタイランド(バンコク近郊アマタナコン工業団地内)はネットシェイプ事業とアッセンブリ事業のアジアにおける戦略拠点である。そして、タイ・シンタード・メッシュ(チェンマイ近郊)はフィルタの生産拠点として、主に石油掘削用フィルタを生産している。

◆2018 年 3 月期第 2 四半期決算の概要

売上高は 73 億 78 百万円(前年同期比 8.7%増)となり、計画の 72 億円を上回ることができた。営業利益は 3 億 26 百万円(同 85.8%増)、経常利益は 3 億 38 百万円(同 171.1%増)、四半期純利益は 2 億 16 百万円(同 234.1%増)となった。

四半期別売上高は、第 1 四半期が 37 億 73 百万円、第 2 四半期は 36 億 4 百万円であった。第 1 四半期はアッセンブリ事業が全体を牽引した。第 2 四半期は若干減少したが、依然として高水準を維持している。第 1 四半期にやや振るわなかったネットシェイプ事業は、第 2 四半期に入り回復した。

事業別では、ネットシェイプ事業の売上高は 33 億 44 百万円(前年同期比 0.3%増)となった。金型部門については、国内は第 2 四半期から売上が増加し、前年同期並みになった。一方で海外は東アジア地域向けが不調で減少した。精密鍛造品部門は、国内のスクロール鍛造品は前年同期並みであったが、開発品が好調に推移した。海外生産も増加している。

アッセンブリ事業の売上高は 30 億 51 百万円(前年同期比 21.9%増)となった。ターボチャージャー部品は、ディーゼルエンジン車用、ガソリンエンジン車用ともに売上が増加した。第 2 四半期に入り、ガソリンエンジン車用が若干減少したものの、国内(同 21.4%増)も海外(同 22.2%増)も売上が大幅に伸びた。

フィルタ事業の売上高は 9 億 82 百万円(前年同期比 3.0%増)となった。国内は大型海水ストレーナーの一時的な減少の影響で前年同期並みとなったが、海外においては医薬品産業向けが好調に推移した。

当上半期の経常利益率は 4.6% (前年同期 1.8%) となった。事業別にみると、ネットシェイプ事業は、精密鍛造品の好調により 2.9% (同 1.6%) に上昇した。アッセンブリ事業も、売上高、生産量の増加により 5.4% (同マイナス 0.7%) となった。フィルタ事業は 8.0% (同 9.2%) であった。

売上原価率は 80.6% (前年同期 82.4%) に低下した。材料費率が 37.4% (同 33.0%) に上昇したが、これは、材料費率の高いアッセンブリ事業が伸びて売上高構成が変化したことが要因となっている。在庫増減率は 0.7% (同マイナス 2.9%) となった。前年同期はアッセンブリ事業の在庫が減少したが、当上半期は売上増加に伴って増えている。

貸借対照表では、固定負債の「その他」がリース債務の減少により、前期末に比べ 1 億 61 百万円減少している。

営業活動によるキャッシュフローは、たな卸資産の増加などにより 9 億 17 百万円のプラスとなった。投資活動によるキャッシュフローは 3 億 11 百万円のマイナス、財務活動によるキャッシュフローは 4 億 41 百万円のマイナスとなった。以上の結果、当上半期末における現金および現金同等物の残高は、前期末に比べ 1 億 77 百万円増加し 26 億 55 百万円となった。

◆2018 年 3 月期通期の業績予想

通期は、売上高 147 億円 (前期比 3.9% 増)、営業利益 7 億 40 百万円 (同 15.3% 増)、経常利益 7 億 20 百万円 (同 11.8% 増)、当期純利益 4 億 40 百万円 (同 3.6% 増) を計画している。

ネットシェイプ事業の売上高は 69 億円 (前期比 1.2% 増) を予想している。金型部門、精密鍛造品部門ともにほぼ計画どおり推移する見込みである。アッセンブリ事業は、ガソリンエンジン車用ターボチャージャーが弱含みになる見通しから 58 億円 (同 7.6% 増)、フィルタ事業は、国内外ともに当初の計画どおりに推移するとみており、20 億円 (同 2.9% 増) を予想している。

設備投資額は 11 億 40 百万円 (前期 9 億 66 百万円)、減価償却費は 8 億 95 百万円 (同 7 億 93 百万円) という計画である。

配当については、中間配当 8 円、期末配当 8 円、年間配当 16 円を予定している。

◆質 疑 応 答◆

アッセンブリ事業は、前期第 4 四半期と今期第 1 四半期に売上高が伸びた。要因は何か。

最終的には、完成車メーカーのクルマの売れ行きや在庫の状況が当社の業績に影響する。この時期も、何か特別な要因があったわけではない。

フィルタ事業の状況を少し説明してほしい。

当四半期は医薬品産業向けが増えたが、これは特定の顧客の伸びによるものである。ネットシェイプ事業もアッセンブリ事業も自動車産業の動向により業績が左右されるが、フィルタ事業は産業が多岐にわたっており、特にこれが売上全体に大きな影響を与えたということではない。フィルタ事業は利益率が高いし、第 3 の柱としてしっかり成長すればグループ全体のバランス面からも非常によいので、ここは力を入れていきたいと思っている。

トータルエンジニアリングサービスをうたっている。実績と新しい取り組みなどを教えてほしい。

トータルエンジニアリングということでは、某ユーザーに対して、金型、精密鍛造にまつわる技術のところから、ある程度の前工程まで手掛けているような例もある。

(平成 29 年 11 月 8 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.nichidai.jp/ir/irlibrary.cgi>